

令和4年度(2022年度) 学校経営方針

樋ノ口小学校の教育

人権尊重の精神を基盤として、個々のかけがえのない生命と可能性を大切に、本質を見極める知性、豊かな心情、強い体をもち、たくましく生きる児童を育成する。また、未来へ向けて自立する児童の姿を求め続ける教職員の姿勢を確立する。

学校教育目標 「考える力、思いやる力」を育む

* キャリアステージに応じた専門的知識・技能の習得をめざす。
* タイムマネジメントの確立に努め、業務の見直しを含めた計画的で効率的な業務の遂行をめざす。
* 風通しが良く、全員が協力して、機動的に対応できる組織の構築をめざす。
* 児童の内面に対する共感的な理解を深め、個々の可能性を引き出す指導をめざす。

* 心の通い合う学級経営を基盤に、望ましい人間関係の形成、自主的、実践的な態度、健全な生活態度の育成に努める。
* 児童一人一人の興味・関心を踏まえ、互いを認め合いながら、主体的に学習に取り組む集団づくりをめざす。
* 学校・家庭・地域が連携・協働し、お互いに関心をもって課題の理解に努め、家庭の教育力向上を図るとともに、地域への愛着や誇りを育む教育に取り組む。

<めざす児童像>

◆明るく元気な子供

〈視点〉
*自らあいさつする姿
*進んで運動する姿

〈指導〉
*みんなに丁寧にあいさつする学級
*運動場で元気に遊ぶ学級

◆仲良く助け合う子供

〈視点〉
*仲間として認め合う姿
*当番活動をやりきる姿

〈指導〉
*不正に対して決して傍観することのない学級
*だれとでも楽しくペア・班活動ができる学級
*どの子も一生懸命清掃に取り組む学級

◆進んで学ぶ子供

〈視点〉
*丁寧に話す姿、しっかりと話を聴く姿
*気持ちを集中して学ぶ姿

〈指導〉
*正しい姿勢でしっかりと話を聴くことのできる学級
*静かに自習ができる学級

人間として(知・徳・体)調和がとれた「生きる力」をはぐくむために、実態に応じためざす子供像や学年・学級での指導内容を明確にしながら取り組む。

学校経営の重点

(1)豊かな心・健やかな体の育成

①人権文化を創造する仲間づくり

仲間として互いに認め合い、決していじめを許すことのない仲間づくりを推進する。各学年で仲間づくりのねらいや手法を共通理解し、積極的に実践する。

②人権教育・道徳教育の授業の充実

6年間を見通し、以下の4点を重視した人権教育・道徳教育の授業の充実を図り、実践的な態度を育成する。
また、「特別の教科 道徳」を要とした授業力向上と、全教育活動を通して変容や成長を積極的に認める評価について研究を進める。
* 日常の体験の重視 家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活と繋がり深い学習を展開し、生活に生きる学習
* 共感的理解の重視 知的理解を基盤にしなが、共感できる展開を設定した学習
* 生き方の重視 社会生活上のきまりを身につけ、善悪の判断をし、自分自身の生き方を考え、行動に繋がる学習
* 表現する力の重視 表現する力を育てる学習

③基本的生活習慣とソーシャルスキルの定着

開発的な生活指導を徹底する。学級・学年間の引き継ぎを充実させ、基本的生活習慣の定着を図る。
また、社会性を育むため、ソーシャルスキルの伸長を意識した取り組みを展開する。

④配慮を要する子供達の共通理解

配慮を要する子供達について、各学年で共通理解し指導の一貫性を図る。また、指導の手立てや子供の変容・成長を学年会・職員会議で実践交流し、指導のあり方や方向性について共通理解を図る。

⑤健康管理の徹底

保健の学習を大切に、心身の成長や健康の保持・増進の上で望ましい生活のあり方を理解させる。また、日常の健康観察を通して自らの健康を管理していく力を身につけさせる。

⑥食育の充実

食文化に根ざした望ましい食習慣を身につけさせるために、給食指導を核として各教科の学習と関連づけながら、食に関する指導を充実させる。

⑦体力の向上をめざした運動の習慣づくり

進んで運動場で遊び、運動や身体を使った遊びを楽しむ子供を育成する。体育科学習で重点を設定しながら体力の向上に取り組み、運動する習慣づくりを図る。

(2) 充実感・達成感の持てる授業の創造

①わかること・できることを大切にした授業の充実

「わかること・できること」を大切に、プロセスを重視するとともに成果を実感できる授業を展開する。

そのために、以下の6点を重視する。

- * 協働の重視 他者とのかかわりを大切に、対話と学び合いがある授業
- * 意欲の重視 学ぶ意義や必要性を大切に、興味や関心を生み出す授業
- * 個性の重視 一人ひとりの力を把握し、個に応じた展開のある授業
- * 体験の重視 多様な活動を展開し、五感が活用される授業
- * 思考の重視 課題に対するアプローチとふり返りを重視し、自己評価を促す授業
- * 表現の重視 個々の表現を大切に、コミュニケーションをとり合う授業

②基礎的・基本的な知識と技能の習得とそれらを活用して課題を解決する能力の育成

学校での学習(教科学習・朝学習)と家庭学習等の関連性を高め、努力の積み重ねが大切であることを感得できるようにし、学習習慣の定着を図る。また、学習内容のつながりの把握、取り組みの具体性と連続性を図ることにより、基礎的・基本的な知識及び技能の習得とそれらを活用して課題を解決する能力の育成をめざす。

③主体的・対話的で深い学びを含めた指導方法の充実

自分の考えをもつため「一人で」、学び合うため「みんなで」、学習内容を定着させるため「何ができるようになるか」を明確にしなが、学びの質を高める授業改善に取り組む。

④「どの子どもも分り、楽しいと思える授業」を大切に「対話的な学びをつくる授業」に焦点を当てた研究推進

「対話的な学び」に焦点を当てた研究を進め、子供達の力を伸ばすとともに教職員の指導力向上を目指す。

⑤特別支援教育の充実

コーディネーターを中心とした推進体制を確立する。全教職員の共通理解を図り、個別の指導計画に基づいた授業を推進する。個に応じた支援を、必要に応じてしていくことを目指す。

(3) 教育環境の整備

①落ち着いた学習環境

教室・廊下・階段等、清掃活動の指導を徹底し、学習環境を整える。整理・整頓が行き届いた教室づくり、掲示板等を工夫し、落ち着いた学習環境づくりに努める。また、施設改修工事への安全対策や緊急時の対応等について周知を図り、事故防止に努める。

②規範が尊重される学校文化

様々なルールやマナーを定着させるため、教職員や保護者等、大人がモデルとなるよう率先垂範する。また、子ども達の言動の背景及び人間関係の把握に努め、規範が尊重される学校文化づくりを進める。

③整った言語環境

時と場に応じた話し方・聞き方ができるよう、話し言葉・書き言葉の違いを大切に実践を充実させる。また、掲示板等を有効に活用し、子ども達の学習成果や学習情報などを計画的に掲示し、言語環境の整備に努める。

④季節を感じる自然環境

学校ボランティア等の協力も得ながら季節感に溢れる学校園・学級園の整備に努める。併せて、環境体験学習を進めていくため、学校園・学級園の有効活用ができるよう計画を進める。

(4) 双方向に開かれた学校の創造

①横の連携の充実(学校・地域・家庭の連携)

学校と家庭・地域のつながりを重視し、学校経営方針や教育活動を公開し、積極的な情報発信に努める。行事後のアンケート等をもとに、家庭・地域の声を真摯に受けとめ、教育課題の解決を図る。

②縦の連携の充実(校種間の連携)

幼保・小・中の校種間連携を図り、教育活動に連続性をもたせる。子ども達が自分らしい生き方を実現していくため、学年間や校種間の連携を図り、夢や希望について、自分の適性や自分づくり、身の周りの仕事や環境への関心を高め、努力する姿勢を養う。

③コミュニティ・スクールの導入

学校関係者評価を教育活動に活かすとともに、これまでの様々なボランティア活動やPTA、地域の諸団体と連携し、「西宮型コミュニティ・スクール」を中心に教科学習や学習補助、学校・地域の安全、学校図書館、教育環境、等の充実を図る。

④地域行事への参画

地域行事への参画や取り組みを通して、学校と保護者・地域との連携をより深める。